

3/5 "世話やきさん"を中心に
住民どうしが助け合いを



2008 春号
SPRING No.26

埼玉県生協連
写真ニュース

発行：埼玉県生活協同組合連合会
〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-11-5
TEL 048-844-8971

URL：http://
www.seikyoren-saitama.or.jp

「お互いさまの地域づくり!」をテーマに102人の参加で学習会を行いました。講師の住民福祉総合研究所所長の本原孝久氏は「介護保険制度ができて良かったが、地域住民が助けを必要な人に手を差し伸べづらくなった面もある。地域の『世話やきさん』を中心にご近所福祉を進めることが災害時や防犯の面からも大切。助けられる側が助ける側にも回れるような『助け合い』を」と提起しました。

2/26 JA女性協と生協ネットワーク協議会の第13回早春交流会
レジ袋削減から身近な環境を守る取り組みを考える



さいたまコープ「コープ狭山台」を会場に、今年も35人の参加で行われました。地球環境を守るための取り組みとして狭山市内2店舗で行った「レジ袋有料化実験」等について学習しました。その後、お店の見学や5グループに分かれ交流を行い、環境に配慮したくらし方やJA女性協の取り組みなどを交流しました。

2/12 NPO法人埼玉消費者被害をなくす会“あなたを狙う悪質商法”学習会
行政や地域くらしの会と共催し県内2カ所で学習会を開催



熊谷市会場
「広がるクレジット被害」熊谷市と共催

熊谷市会場には59人、久喜市会場には50人が参加しました。悪質な詐欺による被害が熊谷市近隣でも増えており注意が必要なことや、チラシ広告などを見て不当表示と思うものには消費者が声をあげていくことが大切である事などを学習しました。



久喜市会場
「だまされないで! 広告表示」久喜市くらしの会・白岡町くらしの会と共催

3/10 エコライフ学習会

家庭の電気ダイエットコンクール2007で
家庭からのCO₂を削減
エコライフを家族で実践

地球温暖化防止のために家庭でCO₂削減に取り組めると好評の「家庭の電気ダイエットコンクール」。2007年も372人が参加し約6割がダイエットに成功しました。家族で環境を考え実践し、家族の団らんにも一役かっています。その結果報告を兼ねた「エコライフ学習会」を41人の参加で行いました。



コンクール上位入賞者の表彰。入賞者から「引き続きエコライフをしています」などの感想が語られました。

家庭の電気ダイエットコンクールが、NHK「難問解決!ご近所の底力」(2008年2月24日放送)で紹介されました。



環境にやさしくくらしの工夫を紹介。取り組んだことで家族団らんも増えた。所:さいたまコープ「コープブルーエ」。



「待ったなし!地球温暖化」と題し、気候ネットワーク常任運営委員の畑氏を講師に学習会。

各県議会政党・会派との懇談会
消費者行政や食の安全の問題などを中心に交流

約200万人の組合員を擁す県内生協として、消費者行政や食の安全の問題などについて県議の皆さんと相互理解と交流を図っています。各政党・会派ごとに、地産地消、環境の取り組み、悪質商法を含む消費者問題

などについて積極的に意見交換を行いました。「我が家も組合員です」と自己紹介される議員の方々もたくさんいて、生協への理解と広がりを実感する懇談となりました。



公明党の福永幹事長、久保田議員と懇談



社民党の佐藤議員、共産党の柳下議員と懇談



民主党・無所属の会21人(22人中)と懇談。あいさつされる高橋代表



自民党3役の皆さんと懇談。あいさつされる滝瀬団長



さいたまコープ

「赤ちゃん苗木プレゼント」11年間で1万本を超えました

お店でレジ袋を利用される方からの募金やミルクパックの回収代金などを積み立て、「ラブアース資金」として環境の取り組みに活用しています。その一つ「赤ちゃん苗木プレゼント」は、赤ちゃんの誕生をお祝いし、家庭で環境について考えてもらうきっかけとなるようハナミズキの苗木をプレゼントしています。

「改正生協法について」組合員学習会を開催

4月1日の「改正生協法」施行を前に、2月7日組合員40人(総代や一般組合員)が参加し学習会を行いました。日本生協連より講師を招き、今回の改正の主旨やポイントについてお話しいただきました。生協の事業と活動の根幹である生協法について、改正の意義を考える機会となりました。

ドゥコープ



生活クラブ生協



風力発電をイメージした白い風車を手にパレード

六ヶ所村再処理工場はいらない!の声響かせて

1月27日「青森県で核燃料を再処理するロッカショ工場を止めませんか〜1.27日比谷野外大音楽堂イベント&パレード〜」が開催され、生活クラブ埼玉からは80人以上が参加しました。翌28日には本格稼働の中止などを求めた内閣総理大臣と経済産業大臣宛ての81万筆の署名が内閣府、経済産業省に手渡されました。

豊かな海の恵みを持参した「浜のかあさん」との料理教室

2月22日北海道野付漁協女性部・浜のかあさんをお迎えし、30人を超す組合員と交流しました。料理教室の前に野付漁協が取り組んでいる豊かな海を守るための「植樹活動」と「育てる漁業」のビデオを視聴し、後世につなぐための取り組みを知りました。料理教室では日本一のほたての大きさや、その甘さに感動の輪が広がりました。



埼玉県勤労者生協

この紙は再生紙を使用しています。 PRINTED WITH SOY INK

くらしを守り 思い広げて

医療生協に働く医療スタッフの子育て支援を考える学習会

「医療生協らしい」魅力ある職場・生活環境づくりなどについて、組合員と職員と一緒に考えることを目的に、2月23日組合員・職員36人が参加して行われました。富士通総研の渥美氏から「ワークライフバランス(WLB)」=質の高い生活が質の高い仕事につながる考え方を学び、看護師・介護福祉士が子育ての経験を、また組合員からは、職員の病気の子どもの面倒をみる助け合い活動の取り組みについて報告がありました。



医療生協さいたま

全労済埼玉県本部



「作文の部」入賞者

「版画の部」入賞者

第35回全労済小学生作品コンクール 県内39校と個人からたくさんの出品が

子ども達の豊かな心の成長を願い、社会貢献活動の一環として取り組んでいるコンクールに、県内39の小学校と個人から、作文174点、版画850点の作品が寄せられました。作文には「将来の夢」や「将来の自分」について書かれている作品が多く、また版画の部では学校行事や動物、あるいは空想の出来事など、どの作品も素材とアイデアが活かされた立派な作品ばかりでした。

プルタブを回収し車イスを贈呈

岩槻工場では平成18年9月から「プルタブ回収」活動を開始し、多くの組合員の協力と一部会社の廃材(雑線・ステンレス)も含め今年1月には目標量を達成しました。1月22日、さいたま市社会福祉協議会へ車イスを贈りました。今後もプルタブ回収活動を継続し、台数を重ねられるよう協力を呼びかけています。

倉田理事長より岩槻区事務所の 大谷所長へ車イスを寄贈。



花菱縫製生協

埼玉大学生協・大東文化学園生協・ 淑徳大学みずほ台生協・十文字学園生協



調査活動に参加した5大学(埼玉県立大学含む)の学生達

全国初の取り組みで改善事例も 大学生が不当表示広告を調査

若者を取り巻く「不当表示広告」を大学生の目線から探す全国初の試みとして、埼玉県の呼びかけに応え県内の5大学(うち4カ所が大学生協)72人の学生が調査を行いました。3月3日感謝状贈呈式&発表会が行われ、調査がキッカケとなり改善された事例や学生達より取り組むでの感想などが発表されました。